

土佐清水市の歴史景観 —「日高川丸」の就航した三崎浦—



昭和初め頃の三崎浦(土佐清水市三崎市民センター所蔵)

三崎川の河身が三崎浜の方を流れており、昭和11年以前に撮影された景観写真であることが分かる。恐らくは昭和の初め頃に撮影されたものであろう。河口部に斜めに直行する淵は、旧河道と思われる。時代により三崎川の流路が変遷していることを示す状況証拠である。昭和11年以前の三崎川河道は、川幅がとても広がったことが写真で確認できる。河口から少し上流に上がった所に一本の橋が架かる。これが恐らく「十字橋」であろう。

近世は、三崎川上流部で山城屋や升屋などが地で取れた農産物や木炭、木材などを川船で河口まで下ろし、この三崎浜で廻船に積み替えて消費地に運搬していた。また、近代に入り下川口地区の亀井源七や三崎地区の沖良賢らによって地域の足として「幡多汽船株式会社」が設立され、株式数が最も多い三崎浦に本社が置かれた。三崎浜沖に汽船「日高川丸」は停泊し、乗客は舳によって汽船まで輸送されていた。この日高川丸は、当時、下田—高知間を就航していた土佐商船と競合して乗客を取り合ったが、日高川丸が下田沖で座礁し、再起不能になってからは土佐商船が宿毛まで航路を

延伸した。「十字橋碑」は、河身変更後に何回か移設され、現在は元設置されていたと推測される場所に三崎郷土史の会により昭和 50 年代に移設された。また、この橋碑は、令和 2 年度に土佐清水市域自然災害碑群 10 基の一つとして指定文化財に登録された。

昭和 29 年(1954)土佐清水市誕生までの自治体変遷

明治 4 年(1871)「区制」

県下を 7 郡・230 区に区分 各区に戸長・副戸長を置く。各村に村長。

第 17 区 現在の市域・立石～布～下ノ加江～久百々まで

立石村、布村、布浦、下茅村(下ノ加江)、下茅浦、鍵掛村、久百々浦、久百々村・・・戸長 畠中恒三郎

第 18 区 現在の市域・大岐～足摺半島北部まで

大岐、以布利浦、以布利村、窪津浦、津呂浦、大谷村・・・戸長 谷本如水

第 19 区 現在市域・足摺半島東部～南部西部

伊佐村、伊佐浦、松尾村、松尾浦、大浜浦、中浜浦・・・戸長 永野貞治

第 20 区 現在の市域・浦尻～市街地～加久見・横道まで

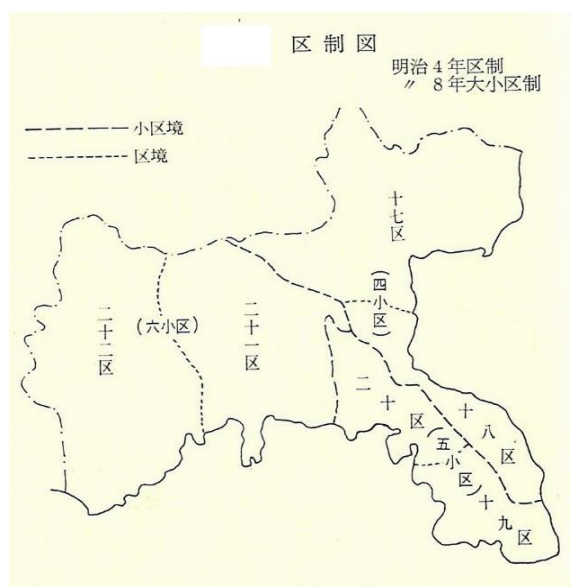
浦尻村、清水浦、越浦、養老浦、加久見村、横道村・・・戸長 浜田八木郎

第 21 区 現在の市域・益野～三崎～斧積～爪白まで

奥益野村、下益野村、斧積村、三崎村、三崎浦、爪白村・・・戸長 沖 憲造

第 22 区 現在の市域・下川口～有永～大津まで

下川口村、下川口浦、片粕村、宗呂村、有永村、貝ノ川村、貝ノ川浦、大津村、大津浦・・・戸長 北村洋七



明治8年(1875)「大小区制」

区制から大小区制に変更された。県下が17大区と105小区となった。結果、幡多郡は3大区と16小区になった。

第15大区第4小区 立石村～大谷村まで 前第17区と18区

戸長 山崎伸太郎 副戸長 中平笑三

第15大区第5小区 伊佐村～横道村まで 前第19区と20区

戸長 藤井芳平 副戸長 岡村景応

第15大区第6小区 奥益野村から大津浦まで 前第21区・22区

戸長 沖 良賢 副戸長 田中正道

明治12年(1879)1月 郡区町村編制法が制定され、郡役所が中村に置かれた

※各町村を自治体と認めて戸長は民選となった。

- ・奥益野村・下益野村・斧積村・三崎村・三崎浦・爪白村が合併して三崎村となる。

戸長 沖 良賢

- ・下川口村、下川口浦、片粕村、宗呂村、有永村、貝ノ川村、貝ノ川浦、大津村、大津浦が合併して下川口村となる。

戸長 田村米吉

※民選戸長制は明治17年まで続いたが、再び官選に戻った。当時、自由民権運動が盛んで官民が鋭く意見対立し、その余波が、戸長役場まで及び、民選戸長と官吏の衝突が度々起こったことがその背景にある。



明治22年(1889)町村制の発足4月1日

伊豆田村(立石、布、下ノ加江、鍵掛、久百々)

初代村長・岡田千里

【役場 下ノ加江浦庄屋跡】

村議会議員数12名(人口4721名)

上灘村(大岐、以布利、窪津、津呂、大谷)

初代村長・小山徳喜

【役場 尻貝】

村議会議員数12名(人口3204名)

清松村(伊佐、松尾、大浜、中浜、浦尻、清水、越、養老、加久見、横道)

初代村長・沖本道愛

【役場 清水貝塚】

村議会議員数18名(人口9260名)

三崎村(奥益野、下益野、三崎、斧積、爪白)

初代村長・上岡真雄

【役場 三崎上ノ段】

村議会議員数12名(人口4414名)

下川口村(下川口、片粕、宗呂、有永、貝ノ川、大津) 初代村長・田村米吉

【役場 下川口岡田屋敷】

村議会議員数12名(人口4766名)



明治 22 年 (1889) ~ 昭和 29 年 (1954) までの町村の動き

- 大正 13 年 (1924) 9 月 15 日 清松村⇒清水町となる。
昭和 16 年 (1941) 4 月 1 日 清水町に上灘村が合併。
昭和 22 年 (1947) 11 月 3 日 三崎村⇒三崎町となる。
昭和 25 年 (1950) 11 月 3 日 下川口村⇒下川口町
伊豆田村⇒下ノ加江町となる。



昭和 29 年 (1954) 8 月 1 日市制発足 人口約 3 万 2000 名

清水町・下ノ加江町・三崎町・下川口町の 4 町が合併して市制発足

【合併までの紆余曲折】

下川口町では、合併に対して賛否両論があり町議会でも賛否をめぐり対立が続いた。昭和 29 年 4 月 8 日、下川口町議会では合併不賛成が可決された（賛成 6 票、反対 8 票）。賛成票を投じた議員たちは、そろって辞表を議長に提出した。町民間でも混乱が生じ、当時の副知事・溝渕増巳氏、県議会議員・仮谷忠男・中平博両氏が下川口町に駆けつけ、反対議員 8 名を説得した。この結果、反対議員もこれを受諾し、議員協議会において一転、合併に賛成することになった。

その後、4 町は渭南地区市制研究協議会を開き、合併への擦り合わせを重ねた。ここでは①合併計画、②4 町の対等合併であること、③清水町に市役所を置くこと、④支所を下ノ加江・三崎・下川口の各役場におくこと、⑤市会議員定数などが協議された。市名については、「渭南市」「足摺岬市」等の案が出されたが、「土佐清水市」で決着した。また、市議会議員の議員定数の割り振りでは、各町の思惑もあり、意見が別れて協議が難航した。

こうした経緯を経て、4 月 30 日「土佐清水市議定書」が取り交わされ、「土佐清水市建設計画」が策定された。「土佐清水市議定書」では、市議会議員の定数・一般職の身分・支所の位置・条例及び規則などの処置について取り決められた。

このように「土佐清水市建設計画」では、合併の形式、市役所及び支所の位置、小学校及び中学校の位置等の細々とした整備にかかる計画が立案された。

昭和 29 年 8 月 1 日、土佐清水市は発足した。同年 9 月 2 日、第 1 回市長選挙の結果、福島克明氏が当選し、初代市長に就任した。また、市議会議員は、清水（定数 12）、三崎・下川口・下ノ加江（定数各 6）の 4 選挙区制により、計 30 名の市議会議員が選出され、土佐清水市運営の体制が整えられた。